

行事予定

2019年(令和元年)12月～2020年(令和2年)4月

【特別展／企画展】

2019年11月1日(金)～2020年1月25日(土)

2019年度特別展II

「聖母の美—諸教会におけるマリア神学とその芸術的展開—」

【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

2019年11月30日(土)～2020年1月10日(金)

2019年度博物館実習成果展

「聖歌と賛美歌～二つのクリスマスソング～」

【場所】西南学院大学博物館1階常設展示室

2020年2月3日(月)～3月14日(土)

2019年度企画展

「文化財とともに生きていく—ドージャー記念館 次の100年に向けて—」

【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

2020年4月13日(月)～7月11日(土)

研究室訪問シリーズIII

黒木重雄研究室「絵を描くという生き方」(仮)

【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂ほか

【特別展／企画展関連イベント】

2019年12月17日(火) 17:30～17:45

クリスマスミニコンサート&ナイトミュージアム

【場所】西南学院大学博物館2階講堂

【演奏】西南学院大学ハンドベルクワイア

※申し込み不要、入場無料

※当日は20:00まで開館延長(入館は19:30まで)

2020年2月3日(月)～3月14日(土)

ワークショップ

「発見! わたしのお気に入り&クイズラリー」

「ジョージ君のわくわくレンガパズル」

【場所】西南学院大学博物館1階エントランス

※申し込み不要

2020年3月14日(土) 13:00～15:00

企画展関連公開講演会「ステンドグラスの修復について」

【場所】西南学院大学博物館2階講堂

【講演者】平山健雄氏(光ステンド工房代表)

※申し込み不要、入場無料

【休館】

毎週日曜日

12月16日(月)、12月25日(水)、12月28日(土)～1月5日(日)

1月27日(月)～2月1日(土)

行事予定は日程、内容等が変更される場合がございます。

西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号

TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室

URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28～1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

[seinamuseum](https://www.facebook.com/seinamuseum) [@seinan_museum](https://twitter.com/seinan_museum) [@seinan_museum](https://www.instagram.com/seinan_museum)

来館者掲示板

【来館者の言葉】

素敵な建物で一日に二回も来てしまいました。この大学の学生となり、またこの建物に来れるよう頑張ろうと思えました。(2019年8月)

勤務で関西からきていますが、展示の中に新島先生の事にふれられており、出身校の創設者なのでごく身近に感じましたし、西南学院と深いつながりがあった事も初めて知りました。ここに住んでいるのも何かのご縁かなと感じました。興味深かったです。有難うございます。(2019年9月)

今日、初めてこの博物館にきました。大学にこんなところがあるなんて知らなかったの、とても面白かったです。(2019年10月)



当館では、7月から10月にかけて特別展「明治日本とキリスト教」を開催いたしました。夏休み期間を挟んでの開催だったこともあり、遠方からの旅行者の方や、高校生のみなどに多数ご来館いただきました。さて、当館では11月1日(金)から特別展「聖母の美」を開催しております。関連イベントも多数ご用意しておりますので、皆様のご来館をお待ちしております。

学芸調査員 木村 新菜

編集後記

12月がやってきました。街を歩いていてクリスマスのディスプレイを見かけると、なんだか楽しい気分になって、ついお金を使いすぎてしまう、そんな季節です。今年もクリスマスにちなんで実習成果展を開催していますので、ぜひご覧ください。一緒に楽しい気分になりましょう。

学芸員 下園 知弥

アクセスマップ ACCESS MAP



地下鉄	福岡空港 → 西新駅下車...約17分
	博多駅 → 西新駅下車...約12分
	天神 → 西新駅下車...約8分
	※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
バス	博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分
	天神 → 修猷館前...約20分
	※修猷館前バス停から徒歩5分
タクシー	福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
	博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
	天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 39 2019.12

西南学院大学

所蔵品紹介	【日本キリスト教史】長崎唐人屋敷騒動鎮圧図
資料でみる西南学院の歴史③	奉安室の菊の紋章
博物館通信	「明治日本とキリスト教—時かれた種—」ほか
展覧会紹介	2019年度博物館実習成果展 聖歌×讚美歌



所蔵品紹介 特集

【日本キリスト教史】

長崎唐人屋敷騒動鎮圧図

The Riot at the Chinese Settlement in Nagasaki

江戸時代後期 / 作者不詳 / 紙本着色、卷子装 /

本紙:幅52.3×長205.4cm

(部分拡大図)



日本が鎖国を行っていた時代、外国船が来航できるのは長崎のみに限られていました。当初は長崎市内を自由に歩くことができていた貿易商人たちですが、1641(寛永18)年にオランダ商館が平戸から出島へ移設され、1689(元禄2)年に唐人屋敷が完成すると、居住地がそれぞれ制限されることになりました。情報の規制や、地元住民とのトラブルを避けるためなどの理由から、彼らは長崎の町を自由に散歩することは許されませんでした。唐人屋敷ではこうした状況に不満を持ち、暴動を起こす中国人たちもいました。

本資料は1835(天保6)年12月に起こった暴動の様子を描いています。このとき鎮圧にあたったのは当時長崎警備を担当していた福岡藩と大村藩でした。集められた人数はそれぞれ大村藩が150人、福岡藩が450人にのぼりました。左上には「上」、資料中央の絵柄が切り替わるところには「中」

の文字が見えます。「上」では、藩兵が集められて突入の指示を待っており、「中」ではいよいよ唐人屋敷へ突入、さらに絵柄が切り替わると、捕らえられた唐人の姿も描かれています。絵図には建物の名称や藩士の名前が書き込まれているため、藩兵たちがどこをどのように通って鎮圧にあたったかを詳細に知ることができます。また、立山奉行所の役人も描かれていることから、奉行所の方も事態を重く見ていたと考えられます。実際にこの騒動では唐人が武器を持って暴れ、役所に石が投げ込まれ、唐人屋敷の表門が破壊されるなどの被害が出ており、180人の逮捕者を出す一大騒動となりました。唐人屋敷の外には見物人の姿もあり、長崎の人々にとっても関心の高い出来事であったでしょう。

このような騒動を幾度も重ねながら外交を行い、またその度に幕府は軍事力の強化を図っていったのです。

学芸調査員 早田 萌



SEINAN GAKUIN

資料でみる西南学院の歴史

③

1930年代以降、日本は軍国主義化が強まってきました。全国の公立のみならず私立の学校においても、文部省の政策により1935年以降「御真影」(天皇と皇后の肖像写真)を奉戴し拝礼することが強制されるようになっていきました。

1937年4月22日、西南学院に御真影が到着しました。このときの様子は、『西南学院新聞』第23号(1937年5月10日)に「御真影は院長之を捧持し、午前十一時、職員、学生生徒其の他、学院関係者皆列御出迎への中を、無事校内御着。此の日、春雨肅々、一入参列者の襟を正さしめ、真に森厳の気を起こさしめた。〈以下省略〉」と記されています。御真影を奉戴するには、奉安所の設置が義務付けられていました。設置当初は学院本館1階(現:西南学院大学博物館1階館長室)の中にあり、入口の扉の上には大きな菊の紋章が取り付けられていました。のちに空襲などによる被害を避けるため、本館と独立した御真影と「教育勅語」をおさめるための「奉安殿」と呼ばれる建築物を設置することになりました。

戦前・戦中の激動の時代に、西南学院はキリスト教学校として厳しい局面を迎えていました。これらの資料は、学院の歴史が今日まで受け継がれてきたことを表す貴重な資料となっています。

学芸調査員 内野 舞衣



菊の紋章 直径8.5×5.0cm
所蔵:西南学院史資料センター



当時の奉安室の写真
所蔵:西南学院史資料センター



博物館通信

2019年9月から11月にかけて行われた博物館活動や出来事の中からいくつかをご紹介します。

西南学院大学博物館では、7月から10月にかけて特別展「明治日本とキリスト教—蒔かれた種—」を開催しました。これに関連して、ミュージアム・レクチャー「明治賛美歌ことばはじめ～パイプ・オルガンと歌う明治初期の賛美歌～」を実施しました。数多くの方々にご参加

して頂き、会場の2階講堂には皆様の歌声とパイプ・オルガンの音色が響き渡りました。今後も西南学院大学博物館ならではの、皆様と共有できるイベントを企画していきたいと思っております。

学芸調査員 西山 萌



7月15日(月)～10月26日(土)
2019年度西南学院大学博物館特別展I
「明治日本とキリスト教—蒔かれた種—」を開催しました。

9月21日(土)
ミュージアム・レクチャー
「明治賛美歌ことばはじめ～パイプ・オルガンと歌う明治初期の賛美歌～」を実施しました。

11月1日(金)～2020年1月25日(土)
2019年度西南学院大学博物館特別展II
「聖母の美—諸教会におけるマリア神学とその芸術的展開—」を開催中です。

11月2日(土)
特別展関連公開講座
「聖母マリアの神学と芸術」を実施しました。

11月4日(月)～11月10日(日)
特別展関連サテライトパネル展示 in アクロス福岡を開催しました。

11月16日(土)
特別展関連公開講演会
「ナザレのマリア—「神の母」vs. 母神—」を実施しました。

展覧会紹介

開催中

2019年度博物館実習成果展

会期/2019年11月30日(土)～
2020年1月10日(金)

会場/西南学院大学博物館1階常設展示室
主催/西南学院大学博物館実習生

聖歌と賛美歌

～ふたつのクリスマスソング～



聖歌 × 賛美歌



典礼聖歌「待降節第四主日」
Hymnbook, 4th Sunday of Advent
17世紀/羊皮紙、手彩色
西南学院大学博物館

私たち日本人が、冬になるとよく耳にするクリスマスソング。実は、それらの起源はクリスマスシーズンに教会で歌われている「聖歌」と「賛美歌」なのです。では、それらの音楽にはどのような違いがあるのでしょうか? 今回の企画展「聖歌と賛美歌～ふたつのクリスマスソング～」では、17世紀に筆写されたカトリックの聖歌集の一枚である「典礼聖

歌「待降節第四主日」と16世紀のプロテスタントの賛美歌集である『バプスト賛美歌集』を展示します。また、ワークショップでは、クロスワードパズルを実施し、館内からキーワードを探して、完成した方にはオリジナルポストカードをプレゼント! さらに、クリスマスに関する本とパネルの紹介もしているので、ぜひご覧になってください。

制作者/小林健人・荒田雅子・宮本昂侍・松田奈穂子・伊藤修・日高未来

展覧会紹介

次回開催

企画展 文化財とともに生きていく

—ドージャー記念館 次の100年に向けて—

会期/2020年2月3日(月)～3月14日(土)

会場/西南学院大学博物館1階特別展示室・2階講堂

主催/西南学院大学博物館



西南学院大学博物館に残る、1920と刻まれた礎石

西南学院大学博物館の建物は、西南学院本館として1920年に着工されました。多くの生徒たちを見守ってきた本館は、2004年に福岡市指定有形文化財として保存建物に指定され、およそ1年間の補強改修工事を経て2006年に西南学院大学博物館として生まれ変わりました。また、2015年には福岡県指定有形文化財に指定されました。着工から100年、西南学院本館は学び舎から文化財へ、さらには西南学院大学博物館として西南学院

やキリスト教文化について多くの方々を知っていただける場所となりました。

さて、西南学院本館着工から100年を迎える2020年に、企画展「文化財とともに生きていく—ドージャー記念館 次の100年に向けて—」を開催いたします。文化財を保存すること、そして文化財とともに生きていくとはどういうことなのか。ここ「西南学院大学博物館」という文化財の中で、考えてみませんか。